

令和7年度生駒市総合計画審議会 第二部会 第2回会議録

開催日時 令和7年5月8日（金） 14時00分～16時15分

開催場所 生駒市役所4階 大会議室

出席者

（委員）久 委員、田中委員、森 委員、鐵東委員、堀部委員、浦久保委員

（事務局）井上経営企画部長、牧井企画政策課長、粉家企画政策課主幹、白川企画政策課企画係長、高山企画政策課員

（担当課）大塚防犯交通対策課長、菊池防犯交通対策課係長、西岳建設部次長、岩井管理課主幹、山本事業計画課長、立田事業計画課課長補佐、前田土木課長、巽みどり公園課長、高橋みどり公園課課長補佐、楠下みどり公園課課長補佐、荻巣都市づくり推進課長、和田都市づくり推進課拠点形成室長、秦学研推進課長、浜田学研推進課長補佐、内蔵住宅課長、細谷下水道課長、西下水道課課長補佐、平尾奈良県広域水道企業団生駒事務所工務課長、池田奈良県広域水道企業団生駒事務所業務課長

欠席者 水野委員、澤藤委員

議事内容

1 各施策の検証

2 その他

【事務局】 （開会宣言、配布資料確認）

以下、発言要旨

【事務局】 基本的施策 12 街の空間づくりの進行管理検証シートにおいて、施策の進捗状況をはかる代表的な指標の市民主体の公園利用件数について令和6年度の数値が 35 となっているが、正しくは 42 である。修正をお願いしたい。

基本的施策 12 街の空間づくり

【久 部会長】 この施策で全体的に気になっているのが、主な方向性ごとに項目が書かれており、めざす状態の全体的な評価がこの記載では分かりづらい。ここは各方向性の中で工夫の必要があると思う。

【事務局】 各々の取組については記載できるが、各方向性がめざす状態に近づいたのかが分かりづらいのは確かだと思う。様式も含めて来年度以降検討したい。

施策の主な方向性1 災害対策・危機管理体制の強化

【久 部会長】 成果の1つ目に、来訪者増につながったとあるが、それがめざす状態にどのような効果があったのか、逆にどのような課題が残ったのかを書き直していただくとよりわかりやすくなると思う。特に課題については、今年度はプラットフォームを作ったことや協議会的な動きをして土壌作りができたが、具体的にそれらが動き出して、空間づくりや出かける人が増えるところまではまだ具体的に繋がっていないことだと思う。今後の取組の方向性は、時間をかけて土壌を醸成し、具体的な空間づくりとか来訪者の増加に繋げるという理解でよいのか。

【都市づくり推進課】 そのとおりである。昨年度のエリアプラットフォーム会議において、商工会議所や市役所、地元の商店街の方々といった運営会員の方々と今後の体制について議論できた。今年度以降はプロジェクトを実行するプレイヤーの募集を行い、地元の昔ながらの方々と新しい方々を繋いで場を作り、出かける人を増やす施策を実施したいと考えている。

【久 部会長】 ここの方向性だけではないが、課題のところで、次は何をするのかまでが記載されている。課題では、できていないことを記載するとわかりやすくなるので、工夫をお願いしたい。

【鐵東 委員】 社会実験や組織の形成はできている。市民の声を反映することで課題も解決する方向に向い、人の増加に繋がると思う。

【久 部会長】 駅前をどうしたいのかは生駒駅南口未来ビジョンに書いてある。確認しながら個々具体的な話に持っていった方がよいのではないのか。

【大谷 委員】 課題の門前町らしい賑わい等、趣ある町並み空間のイメージを市民や事業者と共有する必要があるが、具体的にどのような共有の方法があるのか。

【都市づくり推進課】 当該エリアで街並み環境整備事業をしており、宝山寺参道といっても広くて長いので、最初に門前町の住民やお寺、旅館組合の方々とワークショップを実施している。その中でご意見を一旦イラストに落としたり、皆さんの意見に近い写真を事例として紹介したり、アンケートの中にそういう要素を盛り込むなどでイメージの共有を図っている。

【大谷 委員】 具体的な課題は何か。

【都市づくり推進課】 エリアによって違ってくるが、生駒駅前の部分に関して言えば、門前町らしい賑わいや趣は失われつつある。一方でそれが一概に悪いというわけでもなく、参道沿いに住む方々や商売をされている方々が望むイメージはおそらく異なる。それを丁寧に聞いて目指す将来像を作ることができていないことが課題である。

【久 部会長】 それぞれの記載が細かいので、もう少し大まかにめざす状態にどのように近づいているのか、課題としては何が残っているのかを明確に記載していただきたい。事業評価シートを見ると、かなり具体的な話も出てくるので、進行管理検証シートはもう少し目線を上げて書いていただきたい。

施策の主な方向性2 身近な空間の利活用

【久 部会長】 それぞれの事業で何を行い、どんな成果が出てきたのかは読み取れるが、めざす状態へ近づいたかどうかは少し読み取りにくい。特に社会実験がめざす状態に向けてどのような成果を上げ、どのような課題があるのかを知りたいので、補足で説明いただきたい。

【都市づくり推進課】 行政は税金が原資のため、民間企業のスタートアップのようにテストマーケティングを行うことが難しい。昨今、証拠に基づく政策形成の必要性が高まっており、まずは社会実験を行い、数値として測れる形で検証しながら、令和9年度を目処に快適で安全な空間づくりにより、出かける人が増えるという目標に向かっていきたいと考えている。

【久 部会長】 その成果は何か。

【都市づくり推進課】 社会実験では賛成のご意見が多い一方で、新しい空間整備に戸惑われている住民の方々もいた。その中でどのような新しい空間を作っていくかを検証し、地域住民の合意を得ながら事業を進める必要があると考えている。

【久 部会長】 最終的な理想像があって取り組まれていると思う。そこは実現の方向に近づいているのか。

【都市づくり推進課】 令和9年度のゴールに向けた方向性は整理できたと考えているので、実現に向けた関係部署の連携やステークホルダーの調整などを進めていく。

【大谷 委員】 遊休不動産の利活用について、具体的に教えていただきたい。

【都市づくり推進課】 生駒駅南口にある遊休不動産の調査を行い、約50件の遊休不動産が確認できた。その中からさらにこの事業に資する物件が現在10件ほど絞られてきた。令和7年度はその中の5件程度と調整を図って、利活用につなげたい。

【久 部会長】 その事業が促進されるための突破口は何か。

【都市づくり推進課】 物件所有者の意向、プレイヤーのやりたいこと、さらには生駒市としてどのような場所を南口に作りたいかの三つの要素のマッチングが必要だと考えている。

【久 部会長】 町が魅力的になってくると勝手に動き始めるのではないかと思う。マッチングよりモデルをいくつか作った方が早いと思う。

【鐵東 委員】 もう一度、どうすれば駅前に人が来るのかを調査し、当該エリアに人が集まるようにすることで空き家を減らすという進め方もあると思う。

【久 部会長】 施策 13 の都市拠点との住み分けを考えると、ここは市域全体の身近な空間利活用かと思う。生駒駅周辺以外の場所で何か動きはあったのか。

【都市づくり推進課】 市全体で考えれば他にも多くの動きはあるはずだが、拠点形成室としては生駒駅周辺以外の部分は記載しにくい。

【久 部会長】 地域全体として何が書けるかというのを拠点形成室がマネジメントしてほしい。また、過去にあすか野や萩の台での取組の成果や、各住宅地の中での魅力な空間づくりをもう少し書いていただきたい。

施策の主な方向性3 魅力ある緑・景観づくり

【森 委員】 公園の施設長寿命化事業について、事業評価シートでは国補助金の条件として事業費が 3000 万円以上なければ活用できないと記載がある。これは国の課題ということか、もしくは事業費を上げる必要があるということか。

【みどり公園課】 財源確保は課題の一つである。今後の課題としては、大きい遊具の更新はここ数年で終わり、今後国の補助金が活用しづらいことである。これから 100～200 万円程度の小さな遊具の更新が多く発生する中で、年間 3000 万円の要件を満たそうと思うと、かなりの数の公園、遊具等の更新をする必要があることも一つの課題だと考えている。

【森 委員】 更新すべき遊具は多くあるが、総額 3000 万円に達しない場合はどうするのかという課題はあると思う。国の補助金がなくても進めることを検討していただきたい。

【みどり公園課】 今は国の補助金を活用できているが、活用しないという方法も考えなければならぬ。財源確保は一定数必要になってくると思う。

【久 部会長】 過去に市が注力していたコミュニティパーク事業を再開できれば魅力ある緑・景観づくりの進捗が図られると思う。審議会の意見を進行管理検証シートに記載していただくことで、予算化が図れることもあると思うので、うまく活用していただきたい。

【大谷 委員】 課題に生物多様性や緑の質の向上は一定できているので、そういったことを市民に周知する必要性があるという認識でよいのか。

【みどり公園課】 緑の基本計画の策定は令和6～7年度の2ヶ年で現在も進行中である。基本計画ができれば市民への周知が必要となる。生駒市は緑に関わる方が、他市に比べて多いと聞くが、より多くの市民に関わるきっかけを市が支援する必要があると考えている。

【久 部会長】 個々具体的な成果になっているため、快適で安全な空間づくりによって出かける人が増えていることに対し、緑の基本計画がどう関係するのかを市民との協働で作りに上げていくというのが強調できると、よりアピール力が出ると思う。

施策の主な方向性4 移動しやすいまちづくり

【久 部会長】 事業レベルでの評価がされているので、めざす状態にどれほど近づいているかに焦点を当てて書き直していただきたい。

【鐵東 委員】 バスの路線が廃止になりかけたところを奈良交通や住民と話した結果、路線が残っていることは成果だと思うので、記載していただきたい。

【久 部会長】 生駒市の場合はニュータウンが多いので、バスに乗ってもらわないと事業者は赤字になっていくだけである。そこは触れていただきたい。行政がいくら努力しても利用客が増えないと存続は難しい。

【大谷 委員】 地域交通の施策だけでは難しい。魅力ある空間や施設がなければ公共交通を使わない。一つの施策だけでは無理があると思う。

【防犯交通対策課】 福祉部局の協力で、市内各地で実施される100歳体操や高齢者サロンに職員が出向き、バスでのお出かけを提案している。また三者協議を経て、お出かけマップを作成した。

【浦久保委員】 街の空間づくりとはいうものの、体を動かすということに注力した内容になっている。「はぎくる」についても心強い事業だと思っているため、記載していただきたい。

【久 部会長】 公共交通の利用等ではコミュニティとの連携も行っているのか。

【防犯交通対策課】 三者協議についての記載が成果に書いているが、まさに地域の方と一緒に取り組んでいる。バスの利用促進の取組として、地域住民主体のお出かけマップの制作であったり、小中学生に対するポスターコンクールを開いたりといった取組を実施している。

【久 部会長】 ニュータウンにお住まいの方が高齢になった際、市役所に責任転嫁しすぎでないのか。

【防犯交通対策課】 協議する中で、地域が主体となって考える必要があると常に訴えているが、住民の中には行政が考えるべきだと考えている方もいる。引き続き、住民の取組だと訴えかけていきたい。

【久 部会長】 言うべきことは言っていただくことが地域のためになると思う。どうしても誰かのせいしたくなる傾向があるので、皆で地域を盛り上げていくことが、歩いて暮らせるまちの実現に繋がると思う。

【鐵東 委員】 その件に関しては、突然住民に考えてと言っても反発しかないと思う。この課題は自分事だと伝えた方が良い。

基本的施策 1 3 都市基盤

施策の主な方向性 1 都市環境の整備

【久 部会長】 めざす状態が評価しづらい。めざす状態と主な方向性を念頭に入れながら記載してほしい。また、成果についての順番は何か意識しているのか。

【都市づくり推進課】 都市づくり推進課が主体で書いており、住宅課の取組を後ろに繋げて書いている。

【久 部会長】 私自身が評価をしているのは、空き家プラットフォームである。他市に比べて空き家の流通促進に取り組んでいることが生駒市の売りだと思う。この事業が最初に来た方がいいのではないか。やはり良い成果が出た順番に書いていただくと、市民の方もわかりやすくなると思うので、お願いしたい。

【田中 委員】 定期的に空き家調査を実施し、新たに発生した空き家の所有者を把握する必要があると課題に書かれているが、空き家調査は実際にどのように行われているのか。

【住宅課】 空き家の調査方法は、水道の利用状況をもとに抽出している。次にアンケート調査で利用状況を所有者に聞いて、最終的に実際に物件の外観調査を行い、空き家の特定を行う。

【田中 委員】 期間的には調査頻度は高いのか。

【住宅課】 これまでは計画の基礎資料のために調査を行っていたが、今後は新規の空き家がより多く発生する。新規の空き家所有者を把握し、早めにアプローチするために、令和7年度からは2年に1回ほどのペースでの定期的な調査を検討している。

【田中 委員】 結果を可視化することも必要だと思う。調査のノウハウや検討されていることなど、新しい方法があれば教えていただきたい。

【住宅課】 平成 28 年に 1 回目の調査を行った際は、対象案件を水道情報で抽出した後に全件外観調査を行ったが、現地調査はかなりのコストがかかった。令和 5 年度は、新規で把握した物件のうち、アンケートの回答がなかった物件で、水道の使用量が少ない物件のみ現地調査を行い、できるだけコストがかからない手法に変更した。

【鐵東 委員】 空き家になる原因を解決するビジネスモデルを作ることが課題解決に繋がると思う。

【久 部会長】 空き家が多い地域と少ない地域が出てくると思うが、その要因分析等はされているのか。

【住宅課】 住宅地ごとの空き家率や高齢化率等を確認しており、高齢化率の高い地域は空き家率も高い。ただ駅前で利便性の良い地域は入れ替わりがあり、高齢化率が高いが空き家率は高くない地域もあるなど、様々な要因がある。地域ごとに見ないと分析はできないため、詳しく地域ごとの状況を見ていきたい。

【久 部会長】 高齢化率等、量的に捉える傾向があると思うが、不動産業的視点が必要だと思う。きめ細かい分析ができると、どのような政策を打てば促進できるのかが見えてくると思う。

【浦久保委員】 空き家は需要と供給がうまくマッチングされていない気がする。空き家情報を事業者に提供することで、流通を活性化する広報を増やしても良いと思う。

【住宅課】 現在は市場での流通が比較的堅調であり、空き家の数は減っている。流通促進プラットフォームでは専門事業者等と連携して、例えば相続登記ができてない、境界が確定できないなど、市場に流通させる手前の課題解決を行っている。

【森 委員】 比較的とあったが、どこと比べているのか。

【住宅課】 全国的な傾向として、空き家は増加傾向にある。ただし、都心に近いエリアでは空き家の数が減っているところもある。

【森委員】 地価がかなり上昇している中、生駒市や大阪市周辺は地価が安く、広い家が良いと考え、転入している特徴があると思う。比較して進んでいるというためには、丁寧な比較が必要だと思う。

【久 部会長】 課題に学研高山地区第 2 工区の都市計画のあり方が必要とあるが、次の主な方向性 2 の学研都市づくりの話かと思う。記載内容の書き分けも、もう少し工夫をお願いしたい。

【都市づくり推進課】 立地適正化計画を令和 6 ～ 7 年度の 2 年間で策定している。その計画策定

の中で、第2工区をどう位置づけるかが非常に大きなテーマであるため、課題として記載した。

【久 部会長】 この事業が学研都市を進める上で最も根本的な事業であり、必要だと思う。方向性1にあって、2にないのは良くないと思う。

施策の主な方向性2 学研都市づくり

【久 部会長】 高山地区南側の企業誘致の話も、可能性は高いと思うが、全体を本当に動かせるかは悩ましいと思う。

【学研推進課】 やはりインフラ整備は重要で、企業を誘致する場合は南側からが現実的である。それほど基盤整備をしなくても、土地利用が図れることもあり、南側の都市的なまちづくりと北側での自然的なまちづくりを並行しながら進めたいと考え、段階的に進めている。

【久 部会長】 私が関わった岸和田の事例で、丘陵地区整備で150平米の市街化区域編入を全部できないということで、市街化調整区域、農地の活用、森林をそのまま残す3つのゾーニングを行った。地元の方々とも協議を重ねながら、現実に合わせてこれからの土地を考えていただくのが良いと思う。

【学研推進課】 最近 AI 等の技術が発展し、データセンターのニーズが高まっている。2工区は比較的災害も少なく、関西電力の変電所があることからデータセンターの立地に適っており、ソフトバンク等の企業も立地してきている。南側だけでなく北側についても、沿道の土地利用をしやすい地域はデータセンターと絡めながら、まちづくりを進めるのは考えられると思う。

【鐵東 委員】 最初から全体を開発しようと思うと、なかなか動かない。できるところから進め、スピード感を出せば、来る企業は絶対にあるので、注力して進めてもらいたい。

【田中 委員】 課題にある建設コストの上昇による事業費の増加は経済的要因だと思う。間接的な要因だと思うが、行政課題としては具体的にどういう捉え方になるのか。

【学研推進課】 例えば学研北生駒地区においては、残土を2工区の事業と連携し処分地を確保することで、全体の事業費を下げることもある。また、準備組合で決定された業務代行予定者の民間のノウハウを取り入れ、コスト削減しながら事業を推進していくこともひとつである。

【久 部会長】 課題をもとに方向性を書いていただきたいので、必ず左の課題に対して右の今後の取組が対応するように工夫していただきたい。

施策の主な方向性3 道路の整備・維持保全

【森 委員】 橋梁長寿命化の修繕事業は実施したのか。

【管理課】 全橋梁を5年で点検しなければならず、1順したときに長寿命化修繕計画を立て、令和5年度には2巡目が終わり、再度長寿命化修繕計画を修正させていただいた。補修工事についても、その5年間の間に実施している。

【森 委員】 施策の進捗状況を測る指標が20%ということは、橋梁の点検が256橋全部できたら100%になるということか。

【管理課】 策定時、補修の必要がある橋梁が256橋中5橋あった。令和6年で1橋終わる予定だったが、今年度に繰り越しとなったため、策定時から変わらない20%のままになっている。

【森 委員】 目標どおり1橋ずつ補修すれば、右肩上がりで上がっていくのではないか。

【管理課】 補修する橋梁が策定当時は5橋だったが、2橋増えて7橋になった。

【久 部会長】 下水道や道路のような延長距離が長ければ割合で良いと思うが、数えられるものに対して割合に直す必要があるのか。1橋ずつ進めていると言う方が、審議会としても評価しやすいし、市民にも伝わりやすいと思う。

【管理課】 以前の基本計画では何橋できたという表現にしていたが、追加で増える可能性があった。工事件数に達したから終了ではない。

【森 委員】 全体の数がわからなければ、割合だと正確に伝わってこない。

【久部会長】 総数があるとわかりやすいので、注釈を入れた方が良い。

【鐵東 委員】 辻町インターの件だが、実際どこに課題があるのか。現状は記載がないが、めざす状態に向けて市民が目に見えて実感できる事業なので、ぜひ進めてほしい。

【久 部会長】 主な方向性にどれだけ進んだかの記載はあるが、めざす状態を実現するために取り組んだことを書いていただきたい。阪奈道路の辻町インターを作ることが市民にとって魅力あるまちになるのであれば、そこを取り上げておくべきである。道路を着々と作れば終わりでは、めざす状態になっていないというご指摘かと思う。

【事業計画課】 辻町インターに関しては、地元の対応と地権者との用地交渉、設計は一定進んでいる。早期に実現できるよう、生駒市としては力を入れていきたい。

施策の主な方向性4 安定的な上下水道の供給・処理

【久 部会長】 上下水道のことは着々と進めており、安全な水道水、それから適切な下水道処理ができていますので問題ないと思うだけで良い。取り組んだ内容を書くよりも、めざす状態の実現に向けては課題もあまりなく、このまま進めるという文言で記載していただきたい。

【森 委員】 主な方向性1で出た立地適正化計画と下水道の普及は整合されているのか。

【下水道課】 都市計画区域を減らされる場合については、それに準じて計画を減らす。

【浦久保委員】 メンテナンスは今後も持続可能であり、新しく全部替えることは到底できないといった文言を追記すべきだと思う。長く使うためのメンテナンスとして、考えておられることがあれば教えていただきたい。

【下水道課】 調査した中から補修する部分を5ヶ年計画で改修していく。大体50年で老朽化すると考えており、50年経った管が生駒市では約3%となっている。生駒市は大型造成地で拡大してきたため、一気に老朽化するという背景もある。計画を立てて平準化し、危ないところから改修していく予定である。

【久 部会長】 成果について、持続可能な水処理の実現に寄与したというように修正していただきたい。

【久部会長】 広域水道事業団に変わってからは、今までどおりに仕事は進められているのか。

【奈良県広域水道企業団】 実際のところはシステム関係などが一新されているため、前のシステムとの相性によって不具合が生じており、市民サービスにも少し影響が出ている。しかし、職員と委託事業者が一丸となって対応しているため、大きな問題はない。

【久 部会長】 大阪府が先行して広域水道企業団に切り替えた。確かに効率性が上がる一方で、今まで市が行ってきた独自性が薄まるので、市民にとってはデメリットの方が出てこないようにしていただきたい。

【奈良県広域水道企業団】 今まで生駒市単独で小回りの利く市民サービスが充足していたところ、組織が大きくなったことで立ち行かなくならないように、本部を中心に各構成団体もこれから課題を一つ一つ潰していきたい。

【久 部会長】 ゴミ処理の広域化に比べて水道の広域化はメリットが感じにくいと思う。良いところは市民にもPRしていただくと良い。しかし、合併しなくても良かったと思う。

【奈良県広域水道企業団】 生駒市単独で水道事業をやり続けた場合、令和８年には料金改定が生じるとシミュレーションを立てた。企業団に統合されたことによって料金が安くなるのではなくて、一定抑えられる。管が老朽化しているため、単独で更新していくとなると限界がある。そういったメリットがあるため、生駒市は企業団の方に舵を取らせていただいた。

【森 委員】 なぜ広域化するとコストが下がるのか。

【水道企業団】 広域化により、国から期間限定で補助金があるため。

戦略的施策Ⅳ 都市ブランドの構築

施策の主な方向性１ 多様な主体がつくる魅力の発信

【久 部会長】 戦略的施策は色々な事業が組み合わさって一つの状態が実現できるはずである。施策の方向ごとに事業を捉えてしまうと、組み合わせの状況が見えにくくなる。様式の工夫も必要だと思う。また、めざす状態は愛着や共感が広がり、その次に循環が生まれているという２段階で構成されているが、(1)の施策の方向性では循環を生み出すことまでは目標にしていないのか。あるいは、めざす状態をこの方向性で全て実現するのか。いこまち宣伝部やいこまちマーケット部など様々な協創の仕掛けを動かしており、市民発の魅力発信が続々と出てきている。ただ、その資源が地域で活用可能となる循環に繋がっているかどうかは、また別の評価となる。

【事務局】 例えば、いこまち宣伝部の活動であれば、ＯＢの方がまた別の活動をしている。このような方々は地域において人材という資源として活躍していただいていることになるので、方向性(1)においても、循環という目標が対象になると考える。

【久 部会長】 好循環のきっかけとなったと書かれているが、循環が促進されたレベルまで進んでいるのか否かによって評価する側の見方も変わってくる。実際にどこまで進んでいるのかが分かる記載を検討いただきたい。

【鐵東 委員】 めざす状態が「暮らす価値のあるまち」という都市ブランドの構築であるが、ブランドは顧客との約束だと思う。生駒市が住宅都市として発展したのは、企業や市民、それぞれが約束を守ってきたからだと思う。不動産業者が建物を建て、市民が建物を購入するという循環で住宅都市というブランドができた。この流れに限界がきて、方向転換していくためには市民によるＰＲだけでなく、企業を巻き込む必要がある。

【久 部会長】 違う角度で見れば、生駒と言えば何を思い浮かべるかがブランディングである。この点についてはどのようにお考えか。

【広報広聴課】 住宅都市として発展してきたが、少子高齢化の進行や宅地開発が落ち着いてきた状況において、第６次総合計画第２期基本計画にあるような自然の豊かさや交通ア

クセスの良さなどの利便性はあるが、まちに住む価値があるのかないのかについて議論を行ってきた中で、本市としては新しい暮らし方、生き方や働き方をPRしていくことが都市ブランドの形成に繋がると考え、市民によるPRに力を入れてきた。また、PRの対象は個人に留まらず、企業や自然といった資源も含めて、幅広く多様なイメージを発信していただいている。

【鐵東 委員】 そういった活動に企業も巻き込むことが大事だと思う。

【久 部会長】 生駒市の教育改革大綱に大きな魅力に感じている。誰1人取り残さない居心地の良い教育の環境づくりをしようと書かれていて、市民協創で作られている。市としてよりアピールしてほしい。

【広報広聴課】 教育に加えて、先進的な地域共生社会推進課や地域包括ケア推進課による取組も生駒市を代表するものである。令和7年度のアクションプランではこの取組を広報していく旨を記載している。

【久 部会長】 全国でもトップレベルの取組を行っているので、積極的にアピールしてもらいたい。ハード面では目立つものがなかったとしても、ソフト面で売り出していくのは生駒らしいブランディングだと思う。

施策の主な方向性2 エリアブランディングの推進

【久 部会長】 本日の審議で行った基本的施策12 街の空間づくりの記載と同じで、違いが分からない。戦略的施策はめざす状態が異なっており、記載内容を書き換えてほしい。基本的施策12 ではハードの整備を進めていたが、戦略的施策ではその効果として愛着・共感が広がって循環が生まれているかどうかについて評価したいので、工夫をお願いしたい。

担当課の事業だけで書こうとしているが、エリアブランディングではもっと幅広く取り組んでいるはずだと思う。生駒市のエリアブランディングはどういう特徴があるか。

【森 委員】 この方向性で求められる効果は、ハード整備ではないと思う。

【都市づくり推進課】 生駒市には古き良き街並みが残っており、人も温かい人が多い。そういった面から、人と人が繋がると愛着や共感が生まれるという感覚がある。特に、生駒駅南口は北口に比べて、良い建物が多くあるにも関わらず、遊休不動産が多く残っており、その不動産を活用し循環を広げることが生駒らしいブランドであると考えている。

【久 部会長】 その想いは市民と共有できているか。私は橿原市の仕事を行っているが、橿原神宮は世界遺産に登録されることになり、そこと比較すると生駒市は弱い。また、利便性も良くて自然豊かであることを謳っているが、利便性では都心には勝てない、

自然では田舎には勝てない。魅力は様々あるが、突出したものがなくて弱い。突出したものができてこそブランディングなので、市民活動やソフト面での魅力的な政策等をエリアブランディングに繋がられないか。

【都市づくり推進課】 生駒に住んでいる方のシビックプライドの醸成に力を入れたい。

【久 部会長】 橿原市といえば全国的には橿原神宮が有名だが、それは150年前に明治政府が作ったもので、墓があった確証はないが、150年も経つと世間一般に認識される。ブランディングとはそれでよいと思う。スタートは実証できないようなものでも、100年以上言い続けると、そのように見えてくることがブランディングの良いところだと思う。生駒市と言えばこれということがエリアブランディングでもできれば良いと思う。それに合わせて空間整備がなされていくと思う。

【都市づくり推進課】 最初は犬や猫のケーブルカーで山上へ行くのは地元住民からすると違和感を覚えたが、ケーブルカーに惹かれて遊園地に来る人は増えている。生駒駅南口エリアはブランディングが確立されていない。生駒駅で降りて生駒山を目指す人は必ず通るので、確実にポテンシャルがあり、生駒市唯一の都市拠点であり、生駒市の玄関口でもある。生駒駅南口を特筆して記載しているのはポテンシャルがあり、ブランディングに注力する必要があるためである。

【久 部会長】 その思いがエリアブランディングのデザインや空間整備にも繋がっていてほしい。ブランディングの柱ができれば、空間整備のデザインも見えてくる。

【都市づくり推進課】 案内サインの設置を記載したが、生駒駅中央改札を出た場所のサインを市民向けのサインから来街者向けのサインに入れ替えた。生駒駅で降りてから、宝山寺参道やケーブルカーへの動線が非常に分かりにくく、来訪者をお迎えする雰囲気ではないことが課題だと感じている。

【久 部会長】 どういうイメージでこのまちを作っていくのか市民と共有し、空間デザインや空間整備でどのようにイメージを実現していくかがエリアブランディングになっていくので、その工夫を強調してほしい。

【鐵東 委員】 先ほどもブランディングの話をしたが、南口で言えば南口で何を市民に約束するのが重要である。楽しさなのか、消費なのか、例えば宝山寺に繋がる参道の雰囲気なのか。それを選択して、徹底的にやるしかない。南口に来たらこれがあるということを市民に約束しない限り、エリアブランディングはできない。

【久 部会長】 行政がブランディングを苦手とする理由は公共性や公平性を考えるからである。そこをどのように捉えていくかが重要と思う。

施策の主な方向性3 公共空間等を活用した交流・滞在の場の創出

【鐵東 委員】 方向性の3でも企業を巻き込めば、まちのえきや音楽のまちいこまに対してサポートする企業が出てくると思う。公園利活用であれば、ネーミングライツなどで投資する企業が出てくる可能性もある。このあたりを意識して取り組んでもらえると事業の進捗速度も上がり、めざす状態に近づくと思う。

【田中 委員】 解決すべき課題の欄に、担い手不足という表現がある。これは行政としての課題として捉えているのか。担い手についての意味や考えを聞かせていただきたい。

【久 部会長】 違う観点で同じような話をする、市民と協働で推進した音楽祭の取組が記載されているが、茨木市の音楽祭や高槻市のジャズストリートは市役所主体ではなく、市民が主体的にお金を集めて長年実施されている。先ほどから鐵東委員が事業者を巻き込めばどうかというお話をされているが、茨木市も高槻市も中小企業の社長が多いまちなので、自らお金を集めて、音楽家も自分たちのコネクションで呼び、主体的に事業が立ち上がる。一方、宝塚市は生駒市とよく似た住宅都市で、宝塚市でも音楽祭をやっているが、市役所がまず動き、市民にご協力いただいている感じが強い。そこが住宅都市としてのまちと、茨木市のように自分たちで作ってきたまちとの違いだと思う。市役所が深く携わらずとも、市民が自発的に動いてくれるようになって初めて協働と言える。田中委員のご指摘もあったが、市民に投げかけて生まれている協働なのか、市民主体の活動が多く出てきているかを確認したい。

【生涯学習課】 現在は中間地点にいる。活動したい方が活動場所を探して主体的に活動が生まれている場合と、市が委託事業として依頼している場合を複合して、音楽の催しを実施している。

【久 部会長】 サラリーマンのOBは活動場所の資源を持っておらず、事業者の方が資源を持っている。事業者との関係を築けば、循環が始まる。宝塚市や生駒市で言えることは、住宅都市として発展してきたためサラリーマンが多く、事業者が持っている資源のように豊かではないので、市民が主体的に動こうと思ったときに資源の量に対する支援を行う必要があるということである。市では担い手や主体性を育みたいと考えているのか。

【生涯学習課】 担い手という部分では、主体性を持って動くまでには至っていないと感じる。現在、取り組んでいる吹奏楽事業や市民でつくる音楽祭は、エントリーするために書類を多く提出する必要があり、申し込み方法に慣れた同じ方が毎年出場されていることが課題である。そこで、今年度から新たにチャレンジ枠を作り、これまで参加できていなかった方が気軽に出場できるようにネットで申込みを受け付け、8月には登美ヶ丘イオンモールで演奏をしていただく予定をしている。演奏していただいた方を市民みんなで作る音楽祭に招待し、新たな人材を求めていると考えている。

【久 部会長】 市民同士で取り組むと円滑に進む話でも、行政が関わると審査のための申請書や

メンバーの確認等が必要になるので、主体的に活動していただいた方が楽であるという方向に仕向けていただくと良い。この方向性についても、基本的施策と重なっている部分が多いので、メリハリをつけて書いていただきたい。戦略的施策なので、お互いの事業が連携しながら、よりブランディングが強化される取組にしていきたい。

【事務局】 （庶務連絡、閉会宣告）